

本学応用生物科学部・清水将文准教授が

第13回日本農学進歩賞を受賞

【受賞研究のポイント】

- ・植物内生放線菌を活用した植物病害の生物防除法に関する研究

【受賞研究の概要】

植物を生産する上で病害の克服は最も重要な課題のひとつです。病害発生を防ぐためには化学合成農薬を使用せざるを得ませんが、農薬に耐性を有する病原体の出現や農薬が環境に与える負の影響などの問題を背景に、近年は化学合成農薬の使用量の低減が世界的に強く求められています。このような情勢の中、化学合成農薬の代わりとなる病害防除法のひとつとして有用微生物を活用した生物的防除法が期待されています。

本学清水准教授は、1990年頃から製薬分野で抗生物質の新規探索源として注目を集めだした植物内生放線菌に生物防除素材としての可能性を見出し、一連の研究を開始しました。これまでに、植物内生放線菌を活用した耐病性組織培養苗の育成法やキャベツセル苗黒すす病の生物的防除法、ウリ類およびイチゴの炭疽病の生物的防除法などの実用的な技術を開発してきました。一部技術についてはすでに実際の植物生産に利用されており、それ以外の研究成果と現在開発を進めている別の生物的防除法も含めて今後の実用化・普及が大きく期待されています。

【受賞内容】

賞の説明：日本農学進歩賞

趣旨	人類と多様な生態系が永続的に共生するための基盤である農林水産業およびその関連産業の発展に資するために、農学の進歩に顕著な貢献をした者を顕彰する。	
授与団体	主催	公益財団法人 農学会
	共催	全国農学系学部長会議，日本農学アカデミー，日本農学会，（独）農業・食品産業技術総合研究機構，（独）農業生物資源研究所，（独）農業環境技術研究所，（独）国際農林水産業研究センター，（独）森林総合研究所，（独）水産総合研究センター，全国農業協同組合中央会
授賞対象者	当該年度の１０月１日時点で，４０歳未満の者。国籍は問わない。	
授賞対象	生命科学，環境科学，生物生産科学，食品科学，国際貢献	
分野	その他を含む広義の農学分野。	
授賞件数	毎年１０件程度	
推薦者	日本学術会議に登録されている農学系学協会の長，国公立大学農学系学部の長，農学に関する産官学いずれかの研究所の長，あるいは日本農学アカデミー会員が毎年１名に限り推薦できる。	

【本件に関する問い合わせ先】

所属：応用生物科学部

氏名：清水将文

電話：内線２８５０

E-mail：shimizma@gifu-u.ac.jp